

2008 年度ブロック共同宣教司牧推進の歩み

「ブロック・小教区での部会制の現状と課題について」

ブロック名: 南 ブロック B 記入者名 ブロック事務局

提出年月日2009年3月28日

【部会制について】 (青谷、宇治、精華、田辺)

- その実態と感じる問題点
 - ・部会制を取り入れたことにより小教区の運営、活動のための役割が明確となった。
 - ・少数の信徒に役割が集中することがなくなり、その信徒がいないと小教区のことかわからないなどの事もなくなった。
 - ・部会制により1人1役を目指したが、現実には部員となるメンバーは固定している。
 - ・専門職となってしまい部員の交代、新規部員の参加が困難な状況もある。
 - 部会制が持つ課題
 - ・縦割りの役割になってしまい、本当の教会の交わり、つながりが等閑視されている。
 - ・出来る仕事を手伝おうと思っても専門職になったため、部会に入会しないと手伝えない状況があり、排他的になっている。
 - ・部の仕事に熱心なあまり機能性を優先し、本来の教会に行く目的を履き違えることが無いように気を付けなければならない。
 - ・どうしても仕事の話に終始してしまい、他の話が出来ないので、教会での奉仕職ではない別のつながりをもつグループを作ってもいいのではないか。
 - 現在の部会制の問題点を解決していく方法
 - ・部のメンバーが役割をこなすため、仕事内容が固定化してしまわないようにするために外部からの意見も取り入れる必要であり、その機関として小教区評議会が部活内容の把握、検討もしている。
 - ・ブロック内の各小教区の部会の横の連絡やブロック合同部会活動を活発に行なう(ブロック合同教育部会、ブロック合同典礼部会など)。
 - ・部会が仕事中心にならないように、信徒への絶え間のない養成が必要である。
 - 部会制が目指している「共同体のみんなが教会の活動を担い福音宣教していく」という目標に向かつて部会制が定着するための工夫
 - ・部会制は、小教区の運営のための機能として活動しているため、部会制による「共同体のみんなが教会の活動を担い福音宣教していく」という目標に直結しているとは思われない。部会制での共同体による福音宣教に結びつけるにはまだまだ課題が残されている。
 - ブロック部会
 - ・ブロック教育部会を定期的に行い、ブロックとして保護者を交えた子どもの信仰教育について話し合っている。
 - ・ブロック教育部会が行なっている行事として、1月のブロック合同親子新年会(ミサ、書初め、カルタ、餅つきなど)。8月に夏期教会学校を一泊二日でYMCAリトリートセンターにて行っている。また、11月にはブロック教会学校 秋の親子遠足も行なっている。
 - ・不定期だがブロック合同典礼部会を開き典礼についての申し送りと確認を行っている。
- ※ 4教会それぞれに、実態、状況、問題点、課題点がさまざまある。今後、部会制を充実していくには時間が掛かり、本来の教会のあり方(ミサ・祈り・学び・交わり)を考慮しながら進めていく必要がある。決して、教会が企業化し仕事をこなす集まりだけになってはならないように注意したい。
- 以上